※令和３年度以前入学生用

学校番号	1206

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	倫理	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校 現代倫理 新訂版（清水書院）［35・清水・倫理 313］						
副教材等	自主作成プリントなど						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

「倫理」は複雑になった現代社会で、豊かに充実した人生を送るために、他者との関係の中で、自分らしく生きることをめざした学習です。先人の思想を手がかりに、悩み、考え、自らの方向を定めていくことを大切にし、「自分ならどうするか、どのように行動するか」ということを常に意識しながら学習に望むことが大切です。難しい内容もありますが、キーワードを意識して、紹介する資料などをじっくり読んで理解を深めていきましょう。興味や関心を持った内容や疑問に思ったことなどはメモをとり、授業で質問するようにしましょう。

2　学習の到達目標

人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて，青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解と思索を深めさせるとともに，人格の形成に努める実践的意欲を高め，他者と共に生きる主体としての自己の確立を促し，良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて，青年期における自己形成について関心を高め，人格の形成と他者と共に生きる主体としての自己の確立に努める実践的意欲をもつ。これらに関わる諸課題を探究する態度を身に付け，人間としての在り方生き方について自覚を深めようとする。	他者と共に生きる主体としての自己の確立について広く課題を見いだし，人間の存在や価値などについて多面的・多角的に考察し探究する。良識ある公民として広い視野に立って主体的かつ公正に判断して，その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関する諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を適切に選択して，これらを他者と共に生きる主体としての自己の確立に資するよう活用している。	青年期における自己形成や人間としての在り方生き方などに関わる基本的な事柄を，他者と共に生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し，人格形成に生かす知識として身に付けている。
評価方法	授業状況の観察 （見る・聞く・書く・考える・調べるができているか　など） 授業プリント等提出物	授業状況の観察 （先人の思想や諸課題に対して、自分なりに考えることができているかなど） 授業プリント等提出物 定期テスト	授業状況の観察 （資料から必要な情報を読み取ることがでているか　など） 授業プリント等提出物 定期テスト	授業状況の観察 （学習してきたことについて正しく答えることができているか　など） 授業プリント等提出物 定期テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和３年度以前入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元（題材）の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
一学期	現代に生きる自己の課題	・青年期の意義	○	○	○	○	a:青年期の意義を意欲的に探究する。 b：青年期の意義を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を表現する。 c：青年期の意義に関する情報を収集し，適切に活用する。 d:人間の特質や青年期の意義について理解する。	・授業状況の観察 ・提出課題 ・定期考査
		・青年期の課題	○	○	○	○	a: 青年期の課題を豊かな自己形成に向けて意欲的に探究する。 b：青年期の課題を自己の生き方に関わる課題とつなげて多面的・多角的に考察したり，パーソナリティの形成やアイデンティティの確立をふまえ，自己の生き方について考察したりし，その過程や結果を表現する。 c：青年期の意義に関する情報を収集し，適切に活用する。 d: 青年期の課題を生きる主体としての自己確立の課題とつなげて理解し，その知識を身に付け。	
	人間の生き方と社会のあり方	・古代ギリシア思想 ・ユダヤ教 ・キリスト教 ・イスラーム教 ・仏教 ・中国思想	○	○	○	○	a: 各思想や各宗教の誕生や広範囲に発展した経緯について関心を高め，意欲的に探究する。また，各思想や各宗教で説かれた人間の存在や価値に関わる基本的な課題を自己の生き方や，人間としての在り方生き方に関わる課題の解決や社会形成に関わる課題の解決につながるものとしてとらえ，関心を高める。 b：先哲が課題として探究したことや，各宗教の教えについて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を表現する。 c：先哲や各宗教に関する資料を収集し，適切に選択して活用する。 d: 各思想や宗教が現代社会の基盤になっていることや，それらの考え方を自己の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付ける。また各宗教の成立過程や展開，特徴について理解する。また，芸術が問いかけているものを自己の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付ける。	・授業状況の観察 ・提出課題 ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

二学期	日本の思想の歩み	・古代日本人の思想 ・日本の仏教思想 ・近世日本の思想 ・西洋思想の受容と対応	○	○	○	○	a: 古代日本人に見られるものの見方・考え方，日本において独自の発展をした仏教や儒教の特質を意欲的に探究する。また，西洋思想の受容と日本の近代化との関わりについて関心を高め，意欲的に探究する。 b：日本の風土とその中で育まれてきたものの見方・考え方の意義，日本文化の発展と仏教との関わりを多面的・多角的に考察し，その過程や結果を様々な方法で表現する。また，啓蒙思想と自由民権思想をふまえ，日本の近代化の課題について考察・探究したり，国家主義の台頭や社会主義の展開，当時の文学作品や大正デモクラシーの運動などをふまえ，日本の近代化の課題について考察・探究したりする。 c：仏教思想が日本人の自然観・生活等に及ぼした影響に関する資料や日本の近代化に関する資料を適切に活用する。 d: 古代日本の自然観・宗教観・道徳観の特質を理解し，その知識を身に付ける。また，仏教・儒教の特徴や日本におけるそれらの受容や展開の経緯について日本文化や日本人に見られるものの見方・考え方と関連付けて理解する。さらに，明治以降の近代化における思想の変遷を理解し，その知識を身に付ける。	・授業状況の観察 ・提出課題 ・定期考査
	現代社会への道程Ⅰ	・人間の尊厳 ・ルネサンス ・宗教改革 ・モラリスト ・近代科学	○	○	○	○	a: 人間中心主義の思想の意義を意欲的に探究する。 d: ルネサンスの特徴とそれがもたらした世界観や人間観，ルターやカルヴァンの思想と宗教改革が与えた影響，人間中心主義の意義について理解し，人格の形成に生かす知識として身に付ける。さらに，芸術のもつ意義について考察したり，芸術家とその作品を手掛かりにして人間としての在り方生き方について自覚を深め，意欲的に探究しようとしたりする。 b:西洋近代社会における人間観の変容を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を表現する。 c：近代科学が思想や倫理、宗教に与えた影響に関する資料を適切に活用する。	・授業状況の観察 ・提出課題 ・定期考査

※令和３年度以前入学生用

三学期	現代社会への道程Ⅱ	・民主社会と幸福 ・社会の発展と幸福 ・自己実現と社会参加	○	○		○	a:民主社会が形成されることの意義や，個人と社会との調和の意義について関心を高め，意欲的に探究する。 b:「自由」の概念について考え方，個人の利益と社会の利益との関係を多面的・多角的に考察し，その過程や結果を表現する。また，功利主義、実証主義や社会進化論，プラグマティズムの思想、社会主義思想およびマルクスの人間観・社会観を理解し，現代の貧困や格差などの問題について考察する。さらに，実存主義について，それぞれの思想家の思想を比較しながら理解する。 d:社会契約説の展開をふまえた民主社会の基本原理や自由についての考え方や近代社会の問題点とその克服を目指そうとした思想を理解し，その知識を身に付ける。	・授業状況の観察 ・提出課題 ・定期考査
	現代の諸課題と倫理	・生命、環境の倫理 ・高度情報化社会の課題 ・家族、地域社会 ・文化と宗教の課題 ・国際平和と人類の福祉の課題	○	○	○	○	d: シュヴァイツァーの生命への畏敬とガンディーの非暴力主義の意義を理解したり，現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて理解し，人格の形成に生かす知識として身に付ける。 c：科学の発展に伴い、生命倫理や人間の尊厳、環境倫理学が課題となっている。それらの課題に関する資料を適切に活用する。 a: 自然や他者との連帯・共生を目指す思想や社会参加の意義を意欲的に探究する。また，現代の倫理的諸課題を自己の課題につなげる意欲をもつとともに，現代に生きる人間としての在り方生き方について，主体的に探究する。 b: 各課題の経過をたどり，これからの社会に向けた問題解決の取り組みのあり方について考察する。また，現代の倫理的諸課題を自己の課題とつなげて多面的・多角的に考察し，その過程や結果を表現する。	・授業状況の観察 ・提出課題 ・定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:思考・判断・表現　c:資料活用の技能　d:知識・理解